

専任教員教育研究業績

平成 29年 5月 5日

| | | | | |
|-------|---------|------|--------------|-----|
| 氏名 | ふりがな | 所属地区 | 職 位 | 性別 |
| 久保 玄理 | くぼ はるよし | 大阪地区 | 教授・准教授 講師 助教 | 男・女 |

担 当 科 目 名

教育の方法と技術

学 歴

| 和暦(西暦)年 月 | 事 項 | 学位 |
|---------------|---------------------------------|----------|
| 昭和50(1975)年3月 | 関西大学商学部商学科入学 | |
| 昭和54(1979)年3月 | 関西大学商学部商学科卒業 | 学士(商学) |
| 平成14(2002)年4月 | 同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程(前期課程)入学 | |
| 平成16(2004)年9月 | 同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程(前期課程)修了 | 修士(政策科学) |
| 平成17(2005)年4月 | 同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程(後期課程)入学 | |
| 平成20(2008)年3月 | 同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程(後期課程)満期退学 | |

教 育 歴 ・ 職 歴

| 名 称 | 期 間 | 教育内容又は業務内容 |
|---------|-----------------|------------------------------|
| 三重県公立学校 | 昭和55年4月～平成28年3月 | 教育全般(教科・道徳・特活・部活・生徒指導・進路指導等) |

所 属 学 会 等

| 名 称 | 活動期間 | 活動内容(役職等の活動を含む) |
|-------------|-------------|-----------------|
| 日本教育行政学会 | 平成17年10月～現在 | 大会参加・口頭発表 |
| 日本教育実践学会 | 平成22年 4月～現在 | 大会参加・口頭発表・座長 |
| 日本特別ニーズ教育学会 | 平成27年 4月～現在 | 大会参加・口頭発表 |

社 会 活 動 等

| 名 称 | 活動期間 | 活 動 内 容 |
|--------------------|-------------------|---------------------------|
| ODA 海外視察研修会 | 平成13年11月 | 外務省、国際協力機構 JICA の視察でタイを訪問 |
| 三重県中学生用社会科副読本編集委員会 | 平成20年11月から平成22年7月 | 副読本の作成に関わり、熊野市分を担当 |
| 日本教育実践学会座長 | 平成22年11月 | 第13回研究大会1日目午前の部B会場座長 |
| 第61次～第64教育研究全国集会 | 平成24年1月から平成27年1月 | 第22分科会座長 |
| 第61次～教育研究三重県集会 | 平成25年から現在 | 第21分科会助言者 |

担 当 教 科 目 に 関 す る 資 格 ・ 免 許 等

| 名 称 | 取得年月 | 取 得 機 関 |
|--------------|---------|--------------------------|
| 中学校1種免許(社会) | 昭和54年3月 | 大阪府教育委員会(昭和53年中1普第3591号) |
| 高等学校1種免許(社会) | 昭和54年3月 | 大阪府教育委員会(昭和53年高1普第4131号) |
| 小学校2種免許 | 昭和60年8月 | 三重県教育委員会(昭和60年小2普第16号) |
| 中学校専修免許(社会) | 平成16年9月 | 三重県教育委員会(平成15年中専第16号) |

研 究 実 績 に 関 す る 事 項

| 代表的な著書、論文等の名称 | 単著共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称 | 概 要 |
|--------------------------------|--------|-----------|--------------------|--|
| (著書) 1、三重県中学生用社会科副読本「三重の文化」 | 共著 | 平成22年9月 | 三重県教育委員会 | 社会科副読本編集委員として県内各地の歴史・文化・史跡等を調査研究し副読本を作成した。筆者担当分は熊野市で那智黒石、紀州鉾山、熊野古道、北山一揆、リアス式海岸であり、これまで研究したことをまとめることができた。 (担当頁:P59,85～P87) |

| | | | | |
|--|----|-------------|------------|---|
| 2、中学校社会科のしおり2012年1学期号「近畿地方に関する地図の活用法について」 | 共著 | 平成24年4月1日 | 帝国書院 | 中学地理分野で90%のシェアを占めている帝国書院の教科書と地図帳をセットにした活用法について記述している。日本全国の中学校社会科教員が教科書を使い授業する時に、地図帳を上手く使いこなせないため悩んでいる人が多い現状をなくすための指導法であり、社会科教員のために書き下ろした指導書である。(担当頁：P30～P32) |
| 3、教育みえNO59地域文化「荒中の挑戦」～日々の活動を通して地域と関わることで過疎からの脱却を目指す～ | 共著 | 平成25年3月22日 | 三重県教育文化研究所 | 研究課題を「日々の活動を通して過疎の町を元気にする実践」と設定し、地域の人たちと関わりを持ちながら活動を継続することで地域を元気にしていた論文である。アンケート結果をみれば数的にも証明できた。今後も継続して続けていく事を期待する。担当頁：(p63～69) |
| 4、三重県心のノート(道徳副読本) | 共著 | 平成25年3月25日 | 三重県教育委員会 | 三重県中学生用社会科副読本「三重の文化」に執筆した文書が「地震の後の津波」と題し登用された。(担当頁：p174) |
| 5、社会科Navi「総合的な学習と社会科教育との関連性についての検証」 | 共著 | 平成25年5月31日 | 日本文教出版 | 教育雑誌 Navi において社会科に関する研究が掲載された。主に総合学習を通して学んだことを、社会科の授業に導入することで、より詳しく発展的に学習できることについてまとめた。(担当頁：P16～P17) |
| 6、教育みえNO65地域文化「特別支援学級生が行うボランティア活動と、独り立ちするための自立活動を通して見えてくるもの」 | 共著 | 平成28年4月22日 | 三重県教育文化研究所 | これまでの特別支援教育とは幾分異なった活動を実践してきたことが記述されている。支援生徒にとり最も重要な事の1つはコミュニケーション能力が高まることであるとの考えをもとに実践を行った。その活動が地域でも評判となり、地域おこしへと繋がっていった。担当頁：(P79～P83) |
| 7、第26回日本幼児教育学会研究発表論文集「支援学級生徒による幼稚園児への造形制作指導」 | 共著 | 平成28年10月31日 | 日本幼児教育学会 | 幼稚園児にプラスチック板の作り方指導を行った。ICTを活用することでよりわかりやすく指導できた。指導を通して園児の能力を高め、積極的な参加を促すことができ、作品を完成することができたことを報告している。担当頁：(p190～191) |
| 学術論文 1、市町村合併に関する一考察 | 単著 | 平成19年1月 | 同志社大学 | 修士の学位論文。 フィールドワークやアンケート調査等も実施し、市町村合併について多方面から検証をおこなった。特に三重県熊野市の合併問題に注目し考察を加え、新熊野市創造に至るまでのアイデアを出し研究を重ねてきた。現在新市では、これまでの提言が活用されており、新たな合併が実施された時にも活用されるであろう。 博士資格論文 |
| 2、学区選択制についての一考察 | 単著 | 平成20年12月 | 同志社大学 | 学区選択制について歴史的な考察を加え現状に至った状況を分析し、且つ四自治体を調査研究することで学区選択制のメリットとデメリットを明確にすることができた。自由学区制度も定着し今後の推移についても論評している。 |

| | | | |
|---|------------------------|----------------------------|---|
| 3、地域おこしにかかわる幼児の特性について (査読付) | 平成29年4月 | 小田原短期大学紀要集 | 本研究は、三重県熊野地域の行事から見た子どもの活動内容について分析し、子どもの特性を捉えることに主眼をおいている。(担当頁：P295～P297) |
| (その他) 1、「古道ガールズによる地域おこしの壮大なる実験」の口頭発表と座長 | 平成22年11月6日・7日 | 日本教育実践学会第13回大会 (上越教育大学) | 総合学習で中学生が行う古道語り部を通して町興しができるか実験した。地域学習で成果を収めるだけでなく、地域に対する強烈なインパクトがあった。ツアー終了後NHKの番組に出演し案内した。又ガイド育成講座で語り部にノウハウを教授する講師となった事を学会で報告した。尚、11月6日午前の部で座長を務めた。 |
| 2、総合的な学習に関する一考察 ～小さな学校のBigな取り組み～ 口頭発表 | 平成23年11月5日・6日 | 日本教育実践学会第14回大会 (仏教大学) | ほうばい(朋輩)祭に中学校が共催することで町興しに参画し過疎の町を活性化しようと取り組んでいる実践である。3,000人の集客力があり地域の一大イベントであり、生徒はスタッフの一員として参加し、祭りを動かす実働部隊として活動することで自立を促す。東紀州地方を活動の場とした壮大なスケールの教育実践である。 |
| 3、第61次教育研究全国集会報告書 | 平成23年12月3日 | 国民教育文化総合研究所 | 三重県教育研究集会で論じられた具体的内容と課題についてまとめたレポートである。この報告書をもとに議論を深めた。(担当頁：P60～P61、P116～P117) |
| 4、新春二木島史跡巡りツアーの記事執筆 | 平成25年1月10日 | 南紀新報社 | 二木島町内の歴史学習を行い、学習結果をまとめ、その成果を発表する場としてツアーを計画し実践したことを紹介した。反響の大きさについても紙面で触れた。 |
| 5、総合的な学習を通して学ぶ社会科教育口頭発表 | 平成25年11月2日・3日 | 日本教育実践学会第16回大会 (岡山大学) | 課題研究部門で発表。総合学習を通して事象を深く学ぶことで学力が付き、それを教科教育にも生かすことで相乗効果をもたらすことがわかった。例えばペリーは開国だけではなく食料・水・燃料を要求求めているのは、米国船が捕鯨活動を行っていたことを実証できる。 |
| 6、東京の歩き方(修学旅行編) | 平成25年11月19日 | 東京書籍Eネット 中学校社会科の広場 | 修学旅行で訪れる有名な観光地東京を、ただ見聞するだけではなく、東京のちょっとした事象を取り上げ、それを深く掘り下げて学習することで、東京のまた違った面が見えてくることを検証した社会科教育の論文である。 |
| 7、実践報告「熊野古道子ども語り部の活動」口頭発表 | 平成26年11月1日・2日 | 日本教育実践学会第17回大会 (鳴門教育大学) | 勤務していた学校が休校となり、これまでの教育実践が途絶えることを危惧したことから、過疎からの脱却を目指すグループを立ち上げてツアーガイドを行っていることを報告した。 |
| 8、「有中ギャラリー」開設についての記事執筆(3本) | 平成27年4月20日、4月30日、5月29日 | 吉野熊野新聞社 南紀新報社 | 有中ギャラリー復活のニュースを執筆した。生徒にも取材し復活の喜びを表現することができた。第2弾第3弾の掲載絵画についても論評した。 |
| 9、教育実践「これまでの特別支援教育を変える | 平成27年10月17日・18日 | 日本特別ニーズ教育学会(SNE：京都教育大学) | これまでの実践を発表することで、特別支援教育に少しでも風を吹かせていたという考えで、このタイトルにし、報告した。実践は熊野古道ガイドとパイロット |

| | | | | |
|--|--|---|--|---|
| <p>実践」口頭発表</p> <p>10、教育実践 「昨年度後期 特別支援学級 生の取り組み」 ～幼児とのか かわりを通し て成長する支 援生徒～ 口頭発表</p> | | <p>平成28年 10月15 日・16日</p> | <p>日本特別ニーズ教 育学会（SNE：金 沢大学）</p> | <p>ファームみかん狩り案内で、一連の企画を実践すること で特別支援学級生徒の自信に繋がったことを報告し た。 昨年度支援学級生が取り組んだ教育活動後半の発 表。園児と関わることでお互いの特性を生かすこと ができる実践であった。ICTを活用することで取り 組みが容易になる実践発表であった。</p> |
| <p>その他（表彰等）</p> <p>1、三重県教育文化 賞5回受賞（20 回・21・22・2 4・25）</p> <p>2、生徒教育文化活 動奨励賞受賞</p> <p>3、第7回幼児教育 実践学会研究奨励賞 受賞 （マスメディア）</p> <p>1、新聞記事執筆</p> <p>2、テレビ等出演 （講演）</p> <p>1 三重県教育研究集 会で分科会ミニ講演</p> <p>2、青年教職員の歓 迎会で講演</p> | <p>平成22年・2 3年・24年・ 26年・27年</p> <p>平成27年5月</p> <p>平成28年8月</p> <p>平成20年～多 数</p> <p>平成20年～</p> <p>平成23年10 月～</p> <p>平成29年5月</p> | <p>三重県教育文化研究所（シンクタンク）主催の教育賞を受賞する。教育実践に関 する論文で地域の総合学習をリードする論文である。</p> <p>三重県教育弘済会より美術部の活動に関する論文で表彰を受ける。</p> <p>幼児教育実践学会での発表により奨励賞を受賞する。</p> <p>吉野熊野新聞・南紀新報へ教育実践の記事を、これまでに約40本配信している。</p> <p>近年はZTVを中心に教育活動に関する取材を受けている。過去にはNHK・中京 テレビ・CBCテレビ等の取材を受けた。</p> <p>毎年10月に開催される研究大会の分科会で、総合学習を中心とする教育実践の 在り方について約1時間講演を行っている。</p> <p>青年教職員の会に招かれミニ講演を開き、教員としての心構えや教育活動の素晴 らしさについて語り、青年教職員と意見交換を行っている。</p> | | |